

編 集 後 記

陽春うららかな來月の初めには、第13回日本醫學會總會が、東京で花々しく開催せられる。大内科學會、大外科科學會を初め、大小41の各部會において、數千の演題を中心に萬餘の會員が論議を戦わす。壯觀といわなければならぬ。數と演題の質から見れば、確に世界有數の學會である。實に日本醫學會の偉大さを讃え度い。

然し、こゝにわれわれが考えさせられる問題がある。即ち、これらの數千の研究成果がわが國の民衆のためにどれだけ裨益しているだろうか、また各研究者の數年の辛苦の結晶がどれだけ報いられているだろうか。このことに思いを致すとき、病院の經營者、病院の管理者は、或は焦慮し、或は失望し、或は自責せざるをえないだろう。というのは學問と實際との間のギャップが如何に大きいかにことに氣付くからである。年々現われる偉大な學問の成果を、刻々實際化し、普く患者に、應用し、そしてより良く國民の福祉を増進せしめるといふ重大な仕事は、一體誰の責任だろう。學問の實際化！ より適正な醫療の普及化！ 病院人が率先取り上げるべき問題ではなからうか。

日本のスイス化という事が、終戦後一部にいわれさす。甚だ結構なことではあるが、本月巻頭掲載の栗山先生のスイスの病院見學記事を一度拜見すれば、その道の如何に峻わしいかが解る。一國の文化は、その國の病院と學校を見れば、一眼で察せられることではなからうか。

河野厚生省醫務課長は醫療機關整備に関する問題を提示された。醫療機關整備という問題は決して新しい問題ではないが、綜合された社會保障という考え方の中で考えられる醫療機關整備の問題は初めてである。勿論日本式のものでなければならぬが、亦歐米のものも良く研究して參考とすべき問題であらう。從來日本の醫療關係者は餘りに個人本位でありすぎた。戦時中は、國家社會主義的であつたが、今こそは、民衆の手で、民衆の爲になる民衆の醫療機關を作らねばならない。公的醫療機關といふ、私的醫療機關といふ、各々その分に應じて相協力し、國民の需めに應ずる態勢を整えねばならない。この問題について皆さんの活潑な論議をお聞かせ願いたい。

近藤氏が綜合病院の精神科のあり方を提唱、考えなければならない問題である。近く綜合病院の齒科のあり方についてもとり上げる積りであるが、その外各科の診療について反省檢討すべき問題を考へて行きたい。宜敷く御投稿をお願い申上げる。

室賀氏は再び健康保險診療の實際問題をまとめて發表せられた。健康保健と病院經營は切實な當面の問題である。多大の御參考になるものと信ずる。

山本氏の「病者から見た病院」は、全く御卓見と申し上げる性質のものである。病院人が反省させられる事柄を澤山に含んでいるものである。

米國公衆衛生局病院課の綜合病院の要素、或は中央材料室用具表など、わが國病院今後の近代化に役立つものであらう。尙、病院管理に參考となる文獻表を掲載することになったが、皆さんからも御氣付きの文獻があれば内容抄録をそえて御知らせ願えれば幸甚です。

吉田は創刊以來連載の「病院と管理」の稿をこの月で一應終りますが、今後は一つづつ纏つたものを發表したいと思つています。御鞭撻を乞う。（編者 吉田）

診 断 第 一 主 義

さくらXレ-フィルム

さくらXレ-フィルムの高感度は撮影時間を短縮し従つて常に鮮鋭な写真を得られます。又患部を表現するその調子は医師の診断に決定的要素を與えます。

直接用 大四切、六切、八切、カビネ、齒科用
間接用—35^m/m 6×6判

小西六寫眞工業株式會社